実務経験のある教員による授業科目一覧表

理工学部
（旧工学部）

学科名	No.	科目名	氏名	単位数	実務経験のある教員による実務経験の教育への活用
機械工学科 (2020年度入学以前)	1	制御工学(1)	杉町　敏之	2	企業において、システム開発に携わった経験をもとに、講義では実用上の課題の紹介などを行っている。
	2	再・工業力学(2)	櫻井　俊彰	2	自動車製造企業で、車両の走行試験の結果からシミュレーション評価を行ってきた経験に基づき、講義では実現象を抽象的な力学モデル化において注意すべき点を解説している。
	3	再・機械力学(1)	槇　徹雄	2	自動車製造企業の研究所や先行開発本部で自動車の騒音振動、衝突安全性能の向上を担当した実務経験をもとに、講義では自動車などの構造を具体的に示しながら、説明を行っている。
	4	再・技術日本語表現技法	杉町　敏之	2	企業において、システム開発に携わった経験をもとに、講義では実用上の課題の紹介などを行っている。
	5	再・流れ学(2)	西部　光一	2	プラントエンジニアリング企業において、主に各流体機械の運転性能や配管内部流れの影響を考慮したシステム構築や機械要素の材料選定する天然ガスプラントのプロセス・システム設計や機械設計業務に従事していた経験に基づき、講義では実際の設計業務で考慮すべき流体の性質や流れ場の解析について解説している。
	6	再・機械力学(2)	槇　徹雄	2	自動車製造企業の研究所や先行開発本部で自動車の騒音振動、衝突安全性能の向上を担当した実務経験をもとに、講義では自動車などの構造を具体的に示しながら、説明を行っている。
	7	創成設計演習	伊東　明美 櫻井　俊彰	2	自動車製造企業でエンジン開発に携わった経験や設計業務に従事した経験に基づき、講義(演習)では、製造業における設計業務を紹介している。
	8	制御工学(2)	杉町　敏之	2	企業において、システム開発に携わった経験をもとに、講義では実用上の課題の紹介などを行っている。
				16	

学科名	No.	科目名	氏名	単位数	実務経験のある教員による実務経験の教育への活用
機械工学科 (2021年度入学以降)	1	機械設計製図(a)	伊東　明美	1	自動車製造企業でエンジン開発に携わった経験をもとに、講義(実習)では、実際の開発現場における図面に対する要求を把握した上で、重要なポイントを強調した、緩急をつけた指導を行っている。
	2	機械設計製図(b)	伊東　明美	1	自動車製造企業でエンジン開発に携わった経験をもとに、講義(実習)では、実際の開発現場における図面に対する要求を把握した上で、重要なポイントを強調した、緩急をつけた指導を行っている。
	3	機械力学(1)及び演習・実験	槇　徹雄	3	自動車製造企業の研究所や先行開発本部で自動車の騒音振動、衝突安全性能の向上を担当した実務経験をもとに、講義では自動車などの構造を具体的に示しながら、説明を行っている。
	4	流れ学及び演習・実験	西部　光一	3	プラントエンジニアリング企業において、主に各流体機械の運転性能や配管内部流れの影響を考慮したシステム構築や機械要素の材料選定する天然ガスプラントのプロセス・システム設計や機械設計業務に従事していた経験に基づき、講義(演習)では実際の設計業務で考慮すべき流体の性質や流れ場の解析について解説している。
	5	創成設計演習	伊東　明美 櫻井　俊彰	2	自動車製造企業でエンジン開発に携わった経験や設計業務に従事した経験に基づき、講義(演習)では、製造業における設計業務を紹介している。
	6	制御工学(1)	杉町　敏之	2	企業において、システム開発に携わった経験をもとに、講義では実用上の課題の紹介などを行っている。
	7	制御工学(2)	杉町　敏之	2	企業において、システム開発に携わった経験をもとに、講義では実用上の課題の紹介などを行っている。
				14	

学科名	No.	科目名	氏名	単位数	実務経験のある教員による実務経験の教育への活用
機械システム工学科 (2020年度入学以前)	1	再・熱力学(1)(熱力学(1)及び演習と同一シラバス)	白鳥　英	2	メーカーの研究所にて、実験・数値解析技術の開発に従事した経験をもとに、モノづくりの実情を、講義や演習の事例紹介に活用している。
	2	再・流れ学(1)(流れ学(1)及び演習と同一シラバス)	白鳥　英	2	メーカーの研究所にて、実験・数値解析技術の開発に従事した経験をもとに、モノづくりの実情を、講義や演習の事例紹介に活用している。
	3	再・工業力学(1)(工業力学及び演習と同一シラバス)	秋田　貢一	2	国立研究所における材料強度研究および研究グループのマネジメントを行っていた経験に基づき、実構造物の強度評価や研究開発の経験を、本科目の目標設定などに活かしている。
	4	再・工業力学(1)(工業力学及び演習と同一シラバス)	宮坂　明宏	2	民間の研究所や特殊法人において衛星の設計開発に携わった経験をもとに、実設計における例を挙げながら講義(演習)を行っている。
	5	振動工学	藪井　将太	2	企業の研究所や開発部門において航空機等の設計開発に携わった経験をもとに、講義では、実際のシステムにおける振動問題を解説している。
	6	基礎設計製図	秋田　貢一	2	製造業における設計開発および国立研究所における研究開発のマネジメントを行っていた経験に基づき、本科目の目標設定などに活かしている。
	7	再・材料力学(3)	秋田　貢一	2	国立研究所における材料強度研究および研究グループのマネジメントを行っていた経験に基づき、実構造物の強度評価や研究開発の経験を、本科目の目標設定などに活かしている。
	8	再・創成設計演習	宮坂　明宏	1	民間の研究所や特殊法人において衛星の設計開発に携わった経験をもとに、講義(演習)では設計方法や評価方法を解説している。
	9	熱力学(2)	白鳥　英	2	メーカーの研究所にて、実験・数値解析技術の開発に従事した経験をもとに、モノづくりの実情を、講義や演習の事例紹介に活用している。
	10	宇宙システム学	宮坂　明宏	2	民間の研究所や特殊法人において衛星の設計開発に携わった経験をもとに、講義では実際の衛星の設計法と開発法を解説している。
	11	機械システム設計演習(2)	宮坂　明宏	2	民間の研究所や特殊法人において衛星の設計開発に携わった経験をもとに、実務について触れながら講義(演習)を行っている。
				21	

学科名	No.	科目名	氏名	単位数	実務経験のある教員による実務経験の教育への活用
機械システム工学科 (2021年度入学以降)	1	熱力学(1)及び演習	白鳥　英	1.5	メーカーの研究所にて、実験・数値解析技術の開発に従事した経験をもとに、モノづくりの実情を、講義や演習の事例紹介に活用している。
	2	流れ学(1)及び演習	白鳥　英	1.5	メーカーの研究所にて、実験・数値解析技術の開発に従事した経験をもとに、モノづくりの実情を、講義や演習の事例紹介に活用している。
	3	工業力学及び演習	秋田　貢一	1.5	国立研究所における材料強度研究および研究グループのマネジメントを行っていた経験に基づき、実構造物の強度評価や研究開発の経験を、本科目の目標設定などに活かしている。
	4	工業力学及び演習	宮坂　明宏	1.5	民間の研究所や特殊法人において衛星の設計開発に携わった経験をもとに、実設計における例を挙げながら講義(演習)を行っている。
	5	基礎設計製図	秋田　貢一	2	製造業における設計開発および国立研究所における研究開発のマネジメントを行っていた経験に基づき、本科目の目標設定などに活かしている。
	6	熱力学(2)	白鳥　英	2	メーカーの研究所にて、実験・数値解析技術の開発に従事した経験をもとに、モノづくりの実情を、講義や演習の事例紹介に活用している。
	7	振動工学	藪井　将太	2	企業の研究所や開発部門において航空機等の設計開発に携わった経験をもとに、講義では、実際のシステムにおける振動問題を解説している。
	8	宇宙システム学	宮坂　明宏	2	民間の研究所や特殊法人において衛星の設計開発に携わった経験をもとに、講義では実際の衛星の設計法と開発法を解説している。
	9	機械システム設計演習(2)	宮坂　明宏	2	民間の研究所や特殊法人において衛星の設計開発に携わった経験をもとに、実務について触れながら講義(演習)を行っている。
				16	

学科名	No.	科目名	氏名	単位数	実務経験のある教員による実務経験の教育への活用
電気電子通信工学科 (2020年度入学以前)	1	通信工学	佐和橋　衛	2	民間企業において、移動通信方式(3G, 4G方式) の研究開発、無線インタフェースの標準化に従事していた経験に基づき、講義では学習する技術の実用システムへの適用性、有効性を説明している。
	2	システム解析	中島　達人	2	電力会社において電力系統制御技術の研究・開発に従事した経験に基づき、講義では得られた実務知識に基づく説明を行っている。
	3	通信システム(情報通信工学科開講の再・通信システムと同一シラバス)	佐和橋　衛	2	民間企業において、移動通信方式(3G, 4G方式) の研究開発や無線インタフェースの標準化に従事した経験に基づき、講義では、学習する技術の実用システムへの適用性、有効性を説明している。
	4	集積回路システム工学(情報通信工学科開講の再・集積回路システム工学と同一シラバス)	柴田　随道	2	企業の研究所において、集積回路の設計開発に従事した経験に基づき、講義では適宜、実務経験を盛り込んだ解説を行っている。
	5	デジタル通信方式(情報通信工学科開講の再・デジタル通信方式と同一シラバス)	佐和橋　衛	2	民間企業において、移動通信方式(3G, 4G方式) の研究開発、無線インタフェースの標準化に従事していた経験に基づき、講義では学習する技術の実用システムへの適用性、有効性を説明している。
	6	再・電力エネルギー基礎	中島　達人	2	電力会社において電力系統制御技術の研究・開発に従事した経験に基づき、講義では得られた実務知識に基づく説明を行っている。
	7	システム制御工学	中島　達人	2	電力会社において電力系統制御技術の研究・開発に従事した経験に基づき、講義では得られた実務知識に基づく説明を行っている。
	8	電子回路	傘　昊	2	半導体企業で集積回路設計開発に従事した経験に基づき、講義では集積回路設計に欠かせないトランジスタ回路の動作原理や集積回路設計の基礎知識を解説している。
	9	符号理論(情報通信工学科開講の再・符号理論と同一シラバス)	佐和橋　衛	2	民間企業において、移動通信方式(3G, 4G方式) の研究開発、無線インタフェースの標準化に従事していた経験に基づき、講義では学習する技術の実用システムへの適用性、有効性を説明している。
	10	応用電子回路(情報通信工学科開講の再・通信集積回路(2)と同一シラバス)	柴田　随道	2	企業の研究所での集積回路の設計開発の実務経験に基づき、適宜、実務経験を盛り込んだ講義を行っている。
	11	パワーエレクトロニクス	鈴木　憲吏	2	プレス機械メーカーにおいての、モータドライブ用大出力インバータの回路設計、板金加工、制御アルゴリズムの開発業務に関する実務経験に基づき、講義ではデバイスの選定，回路定数の同定などを経験をもとに解説し，より実践的な手法を解説している。
				22	

学科名	No.	科目名	氏名	単位数	実務経験のある教員による実務経験の教育への活用
電気電子通信工学科 (2021年度入学以降)	1	通信工学	佐和橋　衛	2	民間企業において、移動通信方式(3G, 4G方式) の研究開発、無線インタフェースの標準化に従事していた経験に基づき、講義では学習する技術の実用システムへの適用性、有効性を説明している。
	2	デジタル通信方式(情報通信工学科開講の再・デジタル通信方式と同一シラバス)	佐和橋　衛	2	民間企業において、移動通信方式(3G, 4G方式) の研究開発、無線インタフェースの標準化に従事していた経験に基づき、講義では学習する技術の実用システムへの適用性、有効性を説明している。
	3	電子回路	傘　昊	2	半導体企業で集積回路設計開発に従事した経験に基づき、講義では集積回路設計に欠かせないトランジスタ回路の動作原理や集積回路設計の基礎知識を解説している。
	4	符号理論(情報通信工学科開講の再・符号理論と同一シラバス)	佐和橋　衛	2	民間企業において、移動通信方式(3G, 4G方式) の研究開発、無線インタフェースの標準化に従事していた経験に基づき、講義では学習する技術の実用システムへの適用性、有効性を説明している。
	5	応用電子回路(情報通信工学科開講の再・通信集積回路(2)と同一シラバス)	柴田　随道	2	企業の研究所での集積回路の設計開発の実務経験に基づき、適宜、実務経験を盛り込んだ講義を行っている。
	6	パワーエレクトロニクス	鈴木　憲吏	2	プレス機械メーカーにおいての、モータドライブ用大出力インバータの回路設計、板金加工、制御アルゴリズムの開発業務に関する実務経験に基づき、講義ではデバイスの選定，回路定数の同定などを経験をもとに解説し，より実践的な手法を解説している。
	7	システム解析	中島　達人	2	電力会社において電力系統制御技術の研究・開発に従事した経験に基づき、講義では得られた実務知識に基づく説明を行っている。
	8	通信システム	佐和橋　衛	2	民間企業において、移動通信方式(3G, 4G方式) の研究開発や無線インタフェースの標準化に従事した経験に基づき、講義では、学習する技術の実用システムへの適用性、有効性を説明している。
	9	集積回路システム工学	柴田　随道	2	企業の研究所において、集積回路の設計開発に従事した経験に基づき、講義では適宜、実務経験を盛り込んだ解説を行っている。
	10	システム制御工学	中島　達人	2	電力会社において電力系統制御技術の研究・開発に従事した経験に基づき、講義では得られた実務知識に基づく説明を行っている。
				20	

学科名	№.	科目名	氏名	単位数	実務経験のある教員による実務経験の教育への活用
医用工学科 (2020年度入学以前)	1	再・福祉ロボット工学及び実習	和多田 雅哉	3	民間企業や研究所において、工作機械の研究・開発、主にモータ・アクチュエータの駆動・制御の開発や試作機の開発、試運転業務にも従事し、ユーザ対応の業務にも携わった実務経験に基づき、講義ではアクチュエータを使用した機器の設計・製作の過程を含め、設計・製作技術の概念、創造性の開発、実経験（実作業）による機構、工作技術、メカトロニクスの基礎理解のために解説を行っている。
	2	再・医用機械工学実習(1)	和多田 雅哉	2	民間企業や研究所において、工作機械の研究・開発、主にモータ・アクチュエータの駆動・制御の開発や試作機の開発、試運転業務にも従事し、ユーザ対応の業務にも携わった実務経験に基づき、講義(実習)ではアクチュエータを使用した機器の設計・製作の過程を含め、設計・製作技術の概念、創造性の開発、実経験（実作業）による機構、工作技術、メカトロニクスの基礎理解のために解説を行っている。
	3	医用機械工学応用(2)	和多田 雅哉	2	民間企業や研究所において、工作機械の研究・開発、主にモータ・アクチュエータの駆動・制御の開発や試作機の開発、試運転業務にも従事し、ユーザ対応の業務にも携わった実務経験に基づき、講義ではアクチュエータを使用した機器の設計・製作の過程を含め、設計・製作技術の概念、創造性の開発、実経験（実作業）による機構、工作技術、メカトロニクスの基礎理解のために解説を行っている。
	4	事例研究(1)	和多田 雅哉	2	民間企業や研究所において、工作機械の研究・開発、主にモータ・アクチュエータの駆動・制御の開発や試作機の開発、試運転業務にも従事し、ユーザ対応の業務にも携わった実務経験に基づき、講義ではアクチュエータを使用した機器の設計・製作の過程を含め、設計・製作技術の概念、創造性の開発、実経験（実作業）による機構、工作技術、メカトロニクスの基礎理解のために解説を行っている。
	5	再・医用機械工学実習(2)	和多田 雅哉	2	民間企業や研究所において、工作機械の研究・開発、主にモータ・アクチュエータの駆動・制御の開発や試作機の開発、試運転業務にも従事し、ユーザ対応の業務にも携わった実務経験に基づき、講義(実習)ではアクチュエータを使用した機器の設計・製作の過程を含め、設計・製作技術の概念、創造性の開発、実経験（実作業）による機構、工作技術、メカトロニクスの基礎理解のために解説を行っている。
	6	医用機械工学基礎(2)	和多田 雅哉	2	民間企業や研究所において、工作機械の研究・開発、主にモータ・アクチュエータの駆動・制御の開発や試作機の開発、試運転業務にも従事し、ユーザ対応の業務にも携わった実務経験に基づき、講義ではアクチュエータを使用した機器の設計・製作の過程を含め、設計・製作技術の概念、創造性の開発、実経験（実作業）による機構、工作技術、メカトロニクスの基礎理解のために解説を行っている。
				13	

学科名	№.	科目名	氏名	単位数	実務経験のある教員による実務経験の教育への活用
医用工学科 (2021年度入学以降)	1	福祉ロボット工学及び実習(a)	和多田 雅哉	1.5	民間企業や研究所において、工作機械の研究・開発、主にモータ・アクチュエータの駆動・制御の開発や試作機の開発、試運転業務にも従事し、ユーザ対応の業務にも携わった実務経験に基づき、講義ではアクチュエータを使用した機器の設計・製作の過程を含め、設計・製作技術の概念、創造性の開発、実経験（実作業）による機構、工作技術、メカトロニクスの基礎理解のために解説を行っている。
	2	医用機械工学実習(1a)	和多田 雅哉	1	民間企業や研究所において、工作機械の研究・開発、主にモータ・アクチュエータの駆動・制御の開発や試作機の開発、試運転業務にも従事し、ユーザ対応の業務にも携わった実務経験に基づき、講義(実習)ではアクチュエータを使用した機器の設計・製作の過程を含め、設計・製作技術の概念、創造性の開発、実経験（実作業）による機構、工作技術、メカトロニクスの基礎理解のために解説を行っている。
	3	福祉ロボット工学及び実習(b)	和多田 雅哉	1.5	民間企業や研究所において、工作機械の研究・開発、主にモータ・アクチュエータの駆動・制御の開発や試作機の開発、試運転業務にも従事し、ユーザ対応の業務にも携わった実務経験に基づき、講義(実習)ではアクチュエータを使用した機器の設計・製作の過程を含め、設計・製作技術の概念、創造性の開発、実経験（実作業）による機構、工作技術、メカトロニクスの基礎理解のために解説を行っている。
	4	医用機械工学実習(1b)	和多田 雅哉	1	民間企業や研究所において、工作機械の研究・開発、主にモータ・アクチュエータの駆動・制御の開発や試作機の開発、試運転業務にも従事し、ユーザ対応の業務にも携わった実務経験に基づき、講義(実習)ではアクチュエータを使用した機器の設計・製作の過程を含め、設計・製作技術の概念、創造性の開発、実経験（実作業）による機構、工作技術、メカトロニクスの基礎理解のために解説を行っている。
	5	医用機械工学応用(2)	和多田 雅哉	2	民間企業や研究所において、工作機械の研究・開発、主にモータ・アクチュエータの駆動・制御の開発や試作機の開発、試運転業務にも従事し、ユーザ対応の業務にも携わった実務経験に基づき、講義ではアクチュエータを使用した機器の設計・製作の過程を含め、設計・製作技術の概念、創造性の開発、実経験（実作業）による機構、工作技術、メカトロニクスの基礎理解のために解説を行っている。
	6	医用機械工学実習(2a)	和多田 雅哉	1	民間企業や研究所において、工作機械の研究・開発、主にモータ・アクチュエータの駆動・制御の開発や試作機の開発、試運転業務にも従事し、ユーザ対応の業務にも携わった実務経験に基づき、講義(実習)ではアクチュエータを使用した機器の設計・製作の過程を含め、設計・製作技術の概念、創造性の開発、実経験（実作業）による機構、工作技術、メカトロニクスの基礎理解のために解説を行っている。
	7	医用機械工学実習(2b)	和多田 雅哉	1	民間企業や研究所において、工作機械の研究・開発、主にモータ・アクチュエータの駆動・制御の開発や試作機の開発、試運転業務にも従事し、ユーザ対応の業務にも携わった実務経験に基づき、講義(実習)ではアクチュエータを使用した機器の設計・製作の過程を含め、設計・製作技術の概念、創造性の開発、実経験（実作業）による機構、工作技術、メカトロニクスの基礎理解のために解説を行っている。
	8	医用機械工学基礎(2)	和多田 雅哉	2	民間企業や研究所において、工作機械の研究・開発、主にモータ・アクチュエータの駆動・制御の開発や試作機の開発、試運転業務にも従事し、ユーザ対応の業務にも携わった実務経験に基づき、講義ではアクチュエータを使用した機器の設計・製作の過程を含め、設計・製作技術の概念、創造性の開発、実経験（実作業）による機構、工作技術、メカトロニクスの基礎理解のために解説を行っている。
	9	事例研究(1)	和多田 雅哉	2	民間企業や研究所において、工作機械の研究・開発、主にモータ・アクチュエータの駆動・制御の開発や試作機の開発、試運転業務にも従事し、ユーザ対応の業務にも携わった実務経験に基づき、講義ではアクチュエータを使用した機器の設計・製作の過程を含め、設計・製作技術の概念、創造性の開発、実経験（実作業）による機構、工作技術、メカトロニクスの基礎理解のために解説を行っている。
				13	

学科名	№.	科目名	氏名	単位数	実務経験のある教員による実務経験の教育への活用
エネルギー化学科 (2020年度入学以前)	1	化学工学	高津　淑人	2	鉄鋼メーカーにおいて、石炭液化技術の実用化研究に携わり、プロセス技術管理の経験に基づいて、講義では、流体輸送システムと熱交換システムの設計を具体的に説明している。
	2	化学熱力学(1)	高津　淑人	2	鉄鋼メーカーにおいて、石炭液化技術の実用化研究に携わり、プロセス技術管理の経験に基づいて、講義では、様々な平衡状態を具体的に説明している。
	3	再･グリーンケミストリー	宗像　文男	2	自動車会社における材料及び環境技術に関する研究開発の経験に基づき、講義では実務経験をもとにした講義内容及び演習の設定を行っている。
	4	再･応用化学実験基礎(1)	宗像　文男	2	自動車会社における材料及び環境技術に関する研究開発の経験に基づき、講義では実務経験をもとにした講義内容及び演習の設定を行っている。
	5	応用電気化学	秀島　翔	2	外資系総合商社において営業・マーケティング業務に携わっていた経験に基づき、講義では身の回りの製品・サービスに役立つ電気化学について、実例をもとに紹介している。
	6	応用化学実験発展	宗像　文男	2	自動車会社における材料及び環境技術に関する研究開発の経験に基づき、講義では実務経験をもとにした講義内容及び演習の設定を行っている。
	7	反応工学	高津　淑人	2	鉄鋼メーカーにおいて、石炭液化技術の実用化研究に携わり、プロセス概念設計の経験に基づいて、講義では、設計方程式の利用事例を分かりやすく説明している。
	8	再･応用化学実験基礎(2)	宗像　文男	2	自動車会社における材料及び環境技術に関する研究開発の経験に基づき、講義では実務経験をもとにした講義内容及び演習の設定を行っている。
	9	エネルギー変換工学	秀島　翔	2	外資系総合商社において営業・マーケティング業務に携わっていた経験に基づき、講義では国内外の資源・エネルギー市場の状況について、実例をもとに紹介している。
				18	

学科名	№.	科目名	氏名	単位数	実務経験のある教員による実務経験の教育への活用
応用化学科 (2021年度入学以降)	1	化学工学	高津　淑人	2	鉄鋼メーカーにおいて、石炭液化技術の実用化研究に携わり、プロセス技術管理の経験に基づいて、講義では、流体輸送システムと熱交換システムの設計を具体的に説明している。
	2	グリーンケミストリー(a)	宗像　文男	1	自動車会社における材料及び環境技術に関する研究開発の経験に基づき、講義では実務経験をもとにした講義内容及び演習の設定を行っている。
	3	応用化学実験基礎(1a)	宗像　文男	1	自動車会社における材料及び環境技術に関する研究開発の経験に基づき、講義では実務経験をもとにした講義内容及び演習の設定を行っている。
	4	応用化学実験発展(a)	宗像　文男	1	自動車会社における材料及び環境技術に関する研究開発の経験に基づき、講義では実務経験をもとにした講義内容及び演習の設定を行っている。
	5	化学熱力学(1)	高津　淑人	2	鉄鋼メーカーにおいて、石炭液化技術の実用化研究に携わり、プロセス技術管理の経験に基づいて、講義では、様々な平衡状態を具体的に説明している。
	6	グリーンケミストリー(b)	宗像　文男	1	自動車会社における材料及び環境技術に関する研究開発の経験に基づき、講義では実務経験をもとにした講義内容及び演習の設定を行っている。
	7	応用化学実験基礎(1b)	宗像　文男	1	自動車会社における材料及び環境技術に関する研究開発の経験に基づき、講義では実務経験をもとにした講義内容及び演習の設定を行っている。
	8	応用化学実験発展(b)	宗像　文男	1	自動車会社における材料及び環境技術に関する研究開発の経験に基づき、講義では実務経験をもとにした講義内容及び演習の設定を行っている。
	9	応用電気化学	秀島　翔	2	外資系総合商社において営業・マーケティング業務に携わっていた経験に基づき、講義では身の回りの製品・サービスに役立つ電気化学について、実例をもとに紹介している。
	10	応用化学実験基礎(2a)	宗像　文男	1	自動車会社における材料及び環境技術に関する研究開発の経験に基づき、講義では実務経験をもとにした講義内容及び演習の設定を行っている。
	11	応用化学実験基礎(2b)	宗像　文男	1	自動車会社における材料及び環境技術に関する研究開発の経験に基づき、講義では実務経験をもとにした講義内容及び演習の設定を行っている。
	12	反応工学	高津　淑人	2	鉄鋼メーカーにおいて、石炭液化技術の実用化研究に携わり、プロセス概念設計の経験に基づいて、講義では、設計方程式の利用事例を分かりやすく説明している。
	13	エネルギー変換工学	秀島　翔	2	外資系総合商社において営業・マーケティング業務に携わっていた経験に基づき、講義では国内外の資源・エネルギー市場の状況について、実例をもとに紹介している。
				18	

学科名	No.	科目名	氏名	単位数	実務経験のある教員による実務経験の教育への活用
原子力安全工学科 (2020年度入学以前)	1	核燃料・材料工学(核燃料材料・サイクル化学工学と同一シラバス)	佐藤　勇	2	国立研究機構の照射後試験施設において、各種実験の実施及び燃料設計業務の経験に基づき、講義では、放射性物質の取扱経験から得られた知見について解説している。
	2	再・核反応工学(核反応工学基礎と同一シラバス)	高木　直行	2	電力会社、研究機関での発電炉運転、新型炉開発の経験に基づき、講義では、現場経験、技術開発プロジェクト経験、設計技術知見を解説している。
	3	原子力機械耐震工学(原子力耐震工学と同一シラバス)	大鳥　靖樹	2	電力関係の研究所において、要望に応じて、現場・実務および研究の課題解決に携わった経験をもとに、講義では、実務での活用例および必要となる事項を中心に解説している。
	4	原子炉物理学	高木　直行	2	電力会社、研究機関において軽水炉輸出プロジェクトマネジメントと軽水炉安全解析の業務に従事した経験に基づき、講義では実務経験の共有と国内外の軽水炉新設動向の紹介を行っている。
	5	再・材料力学	大鳥　靖樹	2	電力関係の研究所において、要望に応じて、現場・実務および研究の課題解決に携わった経験をもとに、講義では、実務での活用例および必要となる事項を中心に解説している。
	6	再・放射線安全学	羽倉　尚人	2	電機メーカーにおいて、放射線施設管理に従事していた実務経験に基づき、講義では、実務的な放射線管理について解説している。
	7	原子力汎論	高木　直行	2	電力会社、研究機関での発電炉運転、新型炉開発の経験に基づき、講義では、現場経験、技術開発プロジェクト経験、設計技術知見を解説している。
	8	再・耐震安全工学基礎(原子力機械工学基礎と同一シラバス)	大鳥　靖樹	2	電力関係の研究所において、要望に応じて、現場・実務および研究の課題解決に携わった経験をもとに、講義では、実務での活用例および必要となる事項を中心に解説している。
	9	原子炉運転制御工学(原子炉設計工学と同一シラバス)	高木　直行	2	電力会社、研究機関での発電炉運転、新型炉開発の経験に基づき、講義では、発電所の現場経験、技術開発プロジェクト経験、設計技術知見を解説している。
	10	原子力安全工学	鈴木　徹	2	国立研究機関にて、原子力プラントの設計と安全に関する研究開発に従事した経験に基づき、講義では、原子力プラントにおける安全確保では何が重要であるかを解説している。
	11	技術者倫理	鈴木　徹 佐藤　勇 羽倉　尚人	2	国内外の研究機関や企業における原子力工学／放射線工学の研究開発に従事していた経験に基づき、講義では、原子力工学／放射線工学における技術者倫理として何が重要であるかを各教員が解説している。
	12	再・放射化学(核燃料・放射化学基礎と同一シラバス)	佐藤　勇	2	国立研究機構の照射後試験施設において、各種実験の実施及び燃料設計業務に従事していた経験に基づき、講義では試験機器の取扱い方、実験計画の立て方及び燃料設計について解説している。
	13	廃炉工学(原子力メンテナンス工学と同一シラバス)	中村　いずみ	2	国立の研究機関において、実構造物に対する耐震実験に従事していた経験や社団法人の耐震基準策定に関与した経験に基づき、講義では、耐震研究の実例紹介や現行の耐震設計基準の解説を行い、講義内容の具体的事例がイメージしやすいようにしている。
	14	原子炉伝熱・流動工学	鈴木　徹	2	国立研究機関にて、原子力プラントの設計と安全に関する研究開発に従事した経験に基づき、講義では、原子力プラントにおける熱流動では何が重要であるかを解説している。
				28	

学科名	No.	科目名	氏名	単位数	実務経験のある教員による実務経験の教育への活用
原子力安全工学科 (2021年度入学以降)	1	核燃料材料・サイクル化学工学	佐藤　勇	2	国立研究機構の照射後試験施設において、各種実験の実施及び燃料設計業務の経験に基づき、講義では、放射性物質の取扱経験から得られた知見について解説している。
	2	核反応工学基礎	高木　直行	2	電力会社、研究機関での発電炉運転、新型炉開発の経験に基づき、講義では、現場経験、技術開発プロジェクト経験、設計技術知見を解説している。
	3	原子力耐震工学	大鳥　靖樹	2	電力関係の研究所において、要望に応じて、現場・実務および研究の課題解決に携わった経験をもとに、講義では、実務での活用例および必要となる事項を中心に解説している。
	4	原子炉物理学	高木　直行	2	電力会社、研究機関において軽水炉輸出プロジェクトマネジメントと軽水炉安全解析の業務に従事した経験に基づき、講義では実務経験の共有と国内外の軽水炉新設動向の紹介を行っている。
	5	原子力汎論	高木　直行	2	電力会社、研究機関での発電炉運転、新型炉開発の経験に基づき、講義では、現場経験、技術開発プロジェクト経験、設計技術知見を解説している。
	6	原子力機械工学基礎	大鳥　靖樹	2	電力関係の研究所において、要望に応じて、現場・実務および研究の課題解決に携わった経験をもとに、講義では、実務での活用例および必要となる事項を中心に解説している。
	7	原子炉設計工学	高木　直行	2	電力会社、研究機関での発電炉運転、新型炉開発の経験に基づき、講義では、発電所の現場経験、技術開発プロジェクト経験、設計技術知見を解説している。
	8	原子力安全工学	鈴木　徹	2	国立研究機関にて、原子力プラントの設計と安全に関する研究開発に従事した経験に基づき、講義では、原子力プラントにおける安全確保では何が重要であるかを解説している。
	9	技術者倫理	鈴木　徹 佐藤　勇 羽倉　尚人	2	国内外の研究機関や企業における原子力工学／放射線工学の研究開発に従事していた経験に基づき、講義では、原子力工学／放射線工学における技術者倫理として何が重要であるかを各教員が解説している。
	10	核燃料・放射化学基礎	佐藤　勇	2	国立研究機構の照射後試験施設において、各種実験の実施及び燃料設計業務に従事していた経験に基づき、講義では試験機器の取扱い方、実験計画の立て方及び燃料設計について解説している。
	11	原子力メンテナンス工学	中村　いずみ	2	国立の研究機関において、実構造物に対する耐震実験に従事していた経験や社団法人の耐震基準策定に関与した経験に基づき、講義では、耐震研究の実例紹介や現行の耐震設計基準の解説を行い、講義内容の具体的事例がイメージしやすいようにしている。
				22	

学科名	№.	科目名	氏名	単位数	実務経験のある教員による実務経験の教育への活用
自然科学科	1	力学	飯島　正徳	2	民間企業の研究員としての実務経験に基づき、講義内容に関係する実体験の紹介を行っている。
	2	力学演習	飯島　正徳	1	民間企業の研究員としての実務経験に基づき、講義内容に関係する実体験の紹介を行っている。
	3	地学(1)	萩谷　宏	2	放送事業者の学校放送番組部における科学教育番組制作の実務経験に基づき、制作した科学番組、書籍、教材を授業で活用している。
	4	電磁気学	飯島　正徳	2	民間企業の研究員としての実務経験に基づき、講義内容に関係する実体験の紹介を行っている。
	5	博物館学(1)	萩谷　宏	2	大学博物館において学芸員業務に従事した経験に基づき、講義では、学芸員の仕事の実際を紹介し、過去の展示作品などを教材として使用している。
	6	博物館学実習(1)	萩谷　宏	1	大学博物館において学芸員業務に従事した経験に基づき、講義では実際の展示作成、過去の特別展の資料などを紹介している。
	7	波動・熱力学	飯島　正徳	2	民間企業の研究員としての実務経験に基づき、講義内容に関係する実体験の紹介を行っている。
	8	地学(2)	萩谷　宏	2	放送事業者の学校放送番組部における科学教育番組制作の実務経験に基づき、制作した科学映像を授業で活用している。
	9	博物館学(2)	萩谷　宏	2	大学博物館において学芸員業務に従事した経験に基づき、講義では、博物館の経営や、維持するための努力について説明している。
	10	分子物性論	飯島　正徳	2	民間企業の研究員としての実務経験に基づき、講義内容に関係する実体験の紹介を行っている。
	11	映像表現論	萩谷　宏	2	放送事業者の学校放送番組部における科学教育番組制作の実務経験に基づき、制作した番組を教材として授業で活用している。
				20	

学科名	№.	科目名	氏名	単位数	実務経験のある教員による実務経験の教育への活用
建築学科	1	再・インテリアデザイン(空間デザイン演習と同一シラバス)	堀場　弘	2	建築設計事務所において、建築設計を行っている実務経験に基づき、実際の現場で行われている様々な条件をもとにかたちにしていくプロセスや、社会において実現するための技術、コスト、制作などの課題、デザインの意図を明確に表現する工夫について、実例をもとに指導を行っている。
	2	再・建築生産管理(建築生産と同一シラバス)	小見　康夫	2	建築設計事務所において、建築設計・工事監理の実務経験に基づき、実践的な講義を行っている。
	3	再・設計(1)	手塚　貴晴	4	設計事務所での、住宅・病院・学校・都市開発に係る建築設計実務の経験に基づき、講義(演習)では実際のプロジェクトに近い授業の進め方をしている。
	4	再・建築設備学基礎	近藤　靖史	2	組織設計事務所における建築環境計画及び建築設備設計の実務経験に基づき、講義では、実務での経験を紹介している。
	5	再・建築工学モデリング	近藤　靖史	2	組織設計事務所における建築環境計画及び建築設備設計の実務経験に基づき、講義では、実務での経験を紹介している。
	6	再・設計(3)	福島　加津也	4	建築設計事務所において、現在も建築設計を行っている実務経験を講義(演習)に生かしている。
	7	再・建築製図演習	小見　康夫	2	建築設計事務所において、建築設計・工事監理の実務経験に基づき、講義(演習)では実践的な知識を解説している。
	8	設計(5)	堀場　弘	4	建築設計事務所において、建築設計を行っている実務経験に基づき、現在の日本社会における都市的な課題を公共的な側面から問い直し、将来的な見通しを踏まえて、課題設定し、最新の建築の技術的な構成、都市開発、環境問題などに関する知見や様々な関連事例、歴史的な発展過程をふまえた指導を行っている。
	9	再・建築構法(2)	小見　康夫	2	建築設計事務所において、建築設計・工事監理の実務経験に基づき、講義(演習)では実践的な知識を解説している。
	10	建築環境工学(2)	近藤　靖史	2	組織設計事務所における建築環境計画及び建築設備設計の実務経験に基づき、講義では、実務での経験を紹介している。
	11	再・設計(2)	堀場　弘	4	建築設計事務所において、建築設計を行っている実務経験に基づき、現在の日本社会における都市的な課題を公共的な側面から問い直し、将来的な見通しを踏まえて、課題設定し、最新の建築の技術的な構成、都市開発、環境問題などに関する知見や様々な関連事例、歴史的な発展過程をふまえた指導を行っている。
	12	再・設計(4)	手塚　貴晴	4	設計事務所での、住宅・病院・学校・都市開発に係る建築設計実務の経験に基づき、講義(演習)では実際のプロジェクトに近い授業の進め方をしている。
				34	

学科名	№.	科目名	氏名	単位数	実務経験のある教員による実務経験の教育への活用
都市工学科	1	耐震工学	吉田　郁政	2	建設コンサルタントにおいて構造解析、地盤解析、リスク評価、耐震性評価等に従事した実務経験に基づき、講義では、基本事項及び具体的な計算方法の説明、及び演習問題作成等に活かしている。
	2	再・インフラデザイン(建築学科開講の再・インフラデザインと同一シラバス)	秋山　祐樹 稲垣　具志	2	官公庁シンクタンクにおいて、地方・国土計画の策定等に関する実務に従事した経験に基づき、講義では、具体的な事例の提示、重要な要点の提示など行っている。 研究機関において、インフラデザインに関するコンサルタント業務に従事した経験に基づき、講義では、具体的な事例の提示、重要な要点の提示など行っている。
	3	再・構造力学(3)	関屋　英彦	2	建設会社における設計部の業務に従事した経験に基づき、講義では、実務で行われている内容を紹介することにより、本講義の意義を理解し易くしている。
	4	技術者倫理	吉田　郁政	2	建設コンサルタントにおけるエンジニアとしての経験に基づき、講義では、エンジニアとしての倫理規範・価値基準、実社会で倫理課題に直面した時の対応手段、「技術と社会の関係」と「事故事例」、「未来の技術が社会に与える影響」などの解説に活かしている。
	5	インフラマネジメント	五艘　隆志	2	建設系の研究所および独立コンサルタントとしての公共事業設計業務に関する実務経験に基づき、講義では、建設契約の解説、演習課題の設定に実務経験を活かしている。
	6	再・構造力学(4)	伊藤　和也	2	独立行政法人における建設工事の災害原因究明及び災害防止研究に関する実務経験に基づき、講義では、静定・不静定構造，座屈の解説に活かしている。
	7	数理統計学	吉田　郁政	2	建設コンサルタントにおいて構造解析、地盤解析、リスク評価、耐震性評価等に従事した実務経験に基づき、講義では、応用事例等を解説している。
	8	再・土の性質	伊藤　和也	2	独立行政法人における建設工事の災害原因究明及び災害防止研究に関する実務経験に基づき、講義では、土の工学的な分類、基本的な物性、土の透水性、土の締固めなどの解説に活かしている。
	9	再・都市工学実験演習(2)	吉田　郁政 五艘　隆志	2	民間コンサルタントにおいて構造解析、地盤解析、リスク評価、耐震性評価等に従事した実務経験に基づき、講義(演習)では応用事例等を解説している。 建設系の研究所および独立コンサルタントとしての公共事業設計業務に関する実務経験に基づき、公共事業執行形態の解説や課題の設定を行っている。
	10	都市計画(1)	稲垣　具志	2	地域シンクタンクにおける交通まちづくりの実践的研究に従事した経験や政府・自治体の審議会等に専門家として参画した経験に基づき、講義では、具体的な事例を解説している。
	11	都市･地域分析(建築学科開講の再・都市・地域分析と同一シラバス)	稲垣　具志 秋山　祐樹	2	自治体・企業研究所や政府系研究所において、地理空間情報に関するコンサルタント業務に従事していた経験や政府機関・自治体における都市・地域計画の審議会等に専門家として参画した実務経験に基づき、講義では、具体的な事例の提示、重要な要点の提示など行っている。
	12	再・鉄筋コンクリート構造	関屋　英彦	2	建設会社において、設計部での実務経験に基づき、講義では、実務における考え方を説明している。
	13	総合演習ゼミナール	伊藤　和也	1	独立行政法人における建設工事の災害原因究明及び災害防止研究に関する実務経験に基づき、講義では、各種問題の解説を行っている。
	14	再・キャリア開発(1)	五艘　隆志	1	建設系の研究所および独立コンサルタントとしての公共事業設計業務に関する実務経験に基づき、講義では、外部講師の選定･招聘、外部講師による講義の補足説明などに実務経験を活かしている。
	15	再・海外建設ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ	五艘　隆志	2	建設系の研究所および独立コンサルタントとしての公共事業(河川構造物)設計業務に関する実務経験に基づき、講義では、外部講師による海外プロジェクト紹介の補足説明や、建設契約の解説、公共調達をモデルとした模擬入札課題の設定などを行っている。
	16	再・都市設計製図	関屋　英彦	2	建設会社における設計部の業務に従事した経験に基づき、講義(演習)では、実務で行われている内容を紹介することにより、本講義の意義を理解し易くしている。
				30	

建築都市デザイン学部

学科名	No.	科目名	氏名	単位数	実務経験のある教員による実務経験の教育への活用
建築学科	1	建築設備学基礎(1)	近藤　靖史	1	組織設計事務所における建築環境計画及び建築設備設計の実務経験に基づき、講義では、実務での経験を紹介している。
	2	設計(1)	手塚　貴晴	2	設計事務所での、住宅・病院・学校・都市開発に係る建築設計実務の経験に基づき、講義(演習)では実際のプロジェクトに近い授業の進め方をしている。
	3	建築工学モデリング(1)	近藤　靖史	1	組織設計事務所における建築環境計画及び建築設備設計の実務経験に基づき、講義では、実務での経験を紹介している。
	4	設計(5)	福島　加津也	2	建築設計事務所において、現在も建築設計を行っている実務経験を講義(演習)に生かしている。
	5	空間デザイン演習	堀場　弘	1.5	建築設計事務所において、建築設計を行っている実務経験に基づき、実際の現場で行われている様々な条件をもとにかたちにしていくプロセスを基にした指導や、社会において実現するための技術、コスト、制作などの課題をふまえた指導、デザインの意図を明確に表現する工夫について、実例をもとに指導を行っている。
	6	設計スタジオ(3)	堀場　弘	2	建築設計事務所において、建築設計を行っている実務経験に基づき、現在の日本社会における都市的な課題を公共的な側面から問い直し、将来的な見通しを踏まえて、課題設定し、最新の建築の技術的な構成、都市開発、環境問題などに関する知見や様々な関連事例、歴史的な発展過程をふまえた指導を行っている。
	7	図学	手塚　貴晴	1	設計事務所での、住宅・病院・学校・都市開発に係る建築設計実務の経験に基づき、講義(演習)では実際のプロジェクトに近い授業の進め方をしている。
	8	設計(2)	手塚　貴晴	2	設計事務所での、住宅・病院・学校・都市開発に係る建築設計実務の経験に基づき、講義(演習)では実際のプロジェクトに近い授業の進め方をしている。
	9	建築生産	小見　康夫	2	建築設計事務所において、建築設計・工事監理の実務経験に基づき、実践的な講義を行っている。
	10	設計(6)	福島　加津也	2	建築設計事務所において、現在も建築設計を行っている実務経験を講義(演習)に生かしている。
	11	設計スタジオ(4)	堀場　弘	2	建築設計事務所において、建築設計を行っている実務経験に基づき、現在の日本社会における都市的な課題を公共的な側面から問い直し、将来的な見通しを踏まえて、課題設定し、最新の建築の技術的な構成、都市開発、環境問題などに関する知見や様々な関連事例、歴史的な発展過程をふまえた指導を行っている。
	12	設計(3)	堀場　弘	2	建築設計事務所において、建築設計を行っている実務経験に基づき、現在の日本社会における公共建築の役割と将来的な見通しを踏まえて、課題設定や最新の建築の技術的な構成、環境問題などに関する知見、様々な関連事例、歴史的な発展過程をふまえた指導を行っている。
	13	建築構法(2)	小見　康夫	1	建築設計事務所において、建築設計・工事監理の実務経験に基づき、講義(演習)では実践的な知識を解説している。
	14	建築環境工学(2)	近藤　靖史	2	組織設計事務所における建築環境計画及び建築設備設計の実務経験に基づき、講義では、実務での経験を紹介している。
	15	建築意匠論	手塚　貴晴	2	設計事務所での、住宅・病院・学校・都市開発に係る建築設計実務の経験に基づき、講義(演習)では実際のプロジェクトに近い授業の進め方をしている。
	16	設計スタジオ(1)	手塚　貴晴	2	設計事務所での、住宅・病院・学校・都市開発に係る建築設計実務の経験に基づき、講義(演習)では実際のプロジェクトに近い授業の進め方をしている。
	17	設計(4)	堀場　弘	2	建築設計事務所において、建築設計を行っている実務経験に基づき、現在の日本社会における公共建築の役割と将来的な見通しを踏まえて、課題設定や最新の建築の技術的な構成、環境問題などに関する知見、様々な関連事例、歴史的な発展過程をふまえた指導を行っている。
	18	設計スタジオ(2)	手塚　貴晴	2	設計事務所での、住宅・病院・学校・都市開発に係る建築設計実務の経験に基づき、講義(演習)では実際のプロジェクトに近い授業の進め方をしている。
				31.5	

学科名	No.	科目名	氏名	単位数	実務経験のある教員による実務経験の教育への活用
都市工学科	1	都市工学概論	関屋　英彦	1	建設会社における設計部の業務に従事した経験に基づき、講義では、実際に行われている設計・維持管理について説明している。
	2	構造力学及び演習(2)	関屋　英彦	3	建設会社における設計部の業務に従事した経験に基づき、講義では、実務で行われている内容を紹介することにより、本講義の意義を理解し易くしている。
	3	都市防災論	吉田　郁政 関屋　英彦	2	建築コンサルタントや建設会社の設計部門での実務経験に基づき、講義では、実務における考え方を説明している。
	4	技術者倫理	吉田　郁政	2	建築コンサルタントにおいてエンジニアとして実務に従事した経験に基づき、講義ではエンジニアとしての倫理規範・価値基準、実社会で倫理課題に直面した時の対応手段、「技術と社会の関係」と「事故事例」、「未来の技術が社会に与える影響」などの解説を行っている。
	5	耐震工学	吉田　郁政	2	建設コンサルタントにおいて構造解析、地盤解析、リスク評価、耐震性評価等に従事した実務経験に基づき、講義では、基本事項及び具体的な計算方法の説明、及び演習問題作成等に活かしている。
	6	インフラマネジメント	五艘　隆志	2	建設系の研究所および独立コンサルタントとしての公共事業設計業務に関する実務経験に基づき、講義では、建設契約の解説、演習課題の設定に実務経験を活かしている。
	7	インフラデザイン	秋山　祐樹 稲垣　具志	2	官公庁シンクタンクにおいて、地方・国土計画の策定等に関する実務に従事した経験に基づき、講義では、具体的な事例の提示、重要な要点の提示など行っている。 研究機関において、インフラデザインに関するコンサルタント業務に従事した経験に基づき、講義では、具体的な事例の提示、重要な要点の提示など行っている。
	8	SD PBL(1)	五艘　隆志	1	建設系の研究所および独立コンサルタントとしての公共事業設計業務に関する実務経験に基づき、講義では、建設契約の解説、演習課題の設定に実務経験を活かしている。
	9	数理統計学	吉田　郁政	2	建設コンサルタントにおいて構造解析、地盤解析、リスク評価、耐震性評価等に従事した実務経験に基づき、講義では、応用事例等を解説している。
	10	地盤工学及び演習(1)	伊藤　和也	3	独立行政法人における建設工事の災害原因究明及び災害防止研究に関する実務経験に基づき、講義では、土の工学的な分類、基本的な物性、土の透水性、土の締固め、土の圧密沈下などの解説に活かしている。
	11	都市計画(1)	稲垣　具志	2	地域シンクタンクにおける交通まちづくりの実践的研究に従事した経験や政府・自治体の審議会等に専門家として参画した経験に基づき、講義では、具体的な事例を解説している。
	12	都市構造物設計	関屋　英彦	2	建設会社における設計部の業務に従事した経験に基づき、講義では、実務で行われている内容を紹介することにより、本講義の意義を理解し易くしている。
	13	総合演習ゼミナール	伊藤　和也	1	独立行政法人における建設工事の災害原因究明及び災害防止研究に関する実務経験に基づき、講義では、各種問題の解説に活かしている。
	14	都市・地域分析	稲垣　具志 秋山　祐樹	2	自治体・企業研究所や政府系研究所において、地理空間情報に関するコンサルタント業務に従事していた経験や政府機関・自治体における都市・地域計画の審議会等に専門家として参画した実務経験に基づき、講義では、具体的な事例の提示、重要な要点の提示など行っている。
	15	都市工学設計製図	関屋　英彦	1	建設会社における設計部の業務に従事した経験に基づき、講義では、実務で行われている内容を紹介することにより、本講義の意義を理解し易くしている。
				28	

情報工学部
（旧知識工学部）

学科名	No.	科目名	氏名	単位数	実務経験のある教員による実務経験の教育への活用
情報科学科 (2020年度入学以前)	1	オブジェクト指向プログラミング(1)	横山　孝典	1	企業にてオブジェクト指向ソフトウェア開発に従事した経験に基づき、講義(演習)では、実務経験で取得した知識やスキルを解説している。
	2	コンピュータ概論	向井　信彦	2	企業おいて、計算機の設計に従事した経験に基づき、講義では、企業で経験した実務について解説している。
	3	オブジェクト指向プログラミング(2)	横山　孝典	1	企業にてオブジェクト指向ソフトウェア開発に従事した経験に基づき、講義(演習)では、実務経験で取得した知識やスキルを解説している。
	4	画像処理	向井　信彦	2	企業おいて、画像処理の実践を行ってきた経験に基づき、講義では、企業で経験した実務について解説している。
	5	組込みシステム	横山　孝典	2	企業にて組込みソフトウェア開発に従事した経験に基づき、講義では、実務経験で取得した知識やスキルを解説している。
	6	情報科学演習	向井　信彦 横山　孝典	3	企業にてソフトウェア開発や計算機の設計に従事した経験に基づき、講義(演習)では、実務経験で取得した知識やスキルを解説している。
	7	コンピュータグラフィックス	向井　信彦	2	企業において、コンピュータグラフィックスの実践を行ってきた経験に基づき、講義では、企業で経験した実務について解説している。
	8	ソフトウェア工学	横山　孝典	2	企業にてソフトウェア開発に従事した経験に基づき、講義では、実務経験で取得した知識やスキルを解説している。
				15	

学科名	No.	科目名	氏名	単位数	実務経験のある教員による実務経験の教育への活用
情報科学科 (2021年度入学以降)	1	オブジェクト指向プログラミング(1)	横山　孝典	1	企業にてオブジェクト指向ソフトウェア開発に従事した経験に基づき、講義(演習)では、実務経験で取得した知識やスキルを解説している。
	2	コンピュータ概論	向井　信彦	2	企業おいて、計算機の設計に従事した経験に基づき、講義では、企業で経験した実務について解説している。
	3	オブジェクト指向プログラミング(2)	横山　孝典	1	企業にてオブジェクト指向ソフトウェア開発に従事した経験に基づき、講義(演習)では、実務経験で取得した知識やスキルを解説している。
	4	画像処理	向井　信彦	2	企業おいて、画像処理の実践を行ってきた経験に基づき、講義では、企業で経験した実務について解説している。
	5	組込みシステム	横山　孝典	2	企業にて組込みソフトウェア開発に従事した経験に基づき、講義では、実務経験で取得した知識やスキルを解説している。
	6	情報科学演習	向井　信彦 横山　孝典	3	企業にてソフトウェア開発や計算機の設計に従事した経験に基づき、講義(演習)では、実務経験で取得した知識やスキルを解説している。
	7	コンピュータグラフィックス	向井　信彦	2	企業において、コンピュータグラフィックスの実践を行ってきた経験に基づき、講義では、企業で経験した実務について解説している。
	8	ソフトウェア工学	横山　孝典	2	企業にてソフトウェア開発に従事した経験に基づき、講義では、実務経験で取得した知識やスキルを解説している。
				15	

学科名	No.	科目名	氏名	単位数	実務経験のある教員による実務経験の教育への活用
情報通信工学科	1	再・通信システム	佐和橋　衛	2	民間企業において、移動通信方式(3G, 4G方式）の研究開発や無線インタフェースの標準化に従事した経験に基づき、講義では、学習する技術の実用システムへの適用性、有効性を説明している。
	2	再・集積回路システム工学	柴田　随道	2	企業の研究所において、集積回路の設計開発に従事した経験に基づき、講義では適宜、実務経験を盛り込んだ解説を行っている。
	3	再・デジタル通信方式	佐和橋　衛	2	民間企業において、移動通信方式(3G, 4G方式）の研究開発、無線インタフェースの標準化に従事していた経験に基づき、講義では学習する技術の実用システムへの適用性、有効性を説明している。
	4	再・符号理論	佐和橋　衛	2	民間企業において、移動通信方式(3G, 4G方式）の研究開発、無線インタフェースの標準化に従事していた経験に基づき、講義では学習する技術の実用システムへの適用性、有効性を説明している。
	5	再・通信信頼性工学	林　正博	2	企業において、通信ネットワークの信頼性設計の実務に携わった経験に基づき、講義では、実際の設計事例と、その時の実務について紹介している。
	6	再・通信集積回路(2)	柴田　随道	2	企業の研究所での集積回路の設計開発の実務経験に基づき、適宜、実務経験を盛り込んだ講義を行っている。
	7	再・通信基礎数学	林　正博	2	企業において、数学を用いた通信ネットワーク業務に従事した経験に基づき、講義では、数学を用いた設計事例とその考え方を解説している。
	8	再・キャリアデザイン	林　正博	1	企業において、通信ネットワークの業務に従事した経験に基づき、講義では、企業訪問に関する具体的アドバイスを行っている。
	9	再・応用電気回路	傘　昊	2	半導体企業において、集積回路設計開発に従事した経験に基づき、講義では、電気回路の知識を深め、実用的な電気回路の解析手法と設計手法に関連する知識を解説している。
	10	再・マルチメディア通信システム	柴田　随道	2	企業の研究所において、情報通信サービスに関連する研究に従事した経験に基づき、講義では適宜、マルチメディア通信システムに関する事例を紹介し、勉強した技術が実サービスにどのように利用されるなどの解説を行っている。
				19	

学科名	№.	科目名	氏名	単位数	実務経験のある教員による実務経験の教育への活用
知能情報工学科 (2020年度入学以前)	1	専門キャリアデザイン	芝　正孝	1	メーカーにおいて、採用活動に関わった経験に基づき、実務のノウハウを解説するとともに、外部講師の招聘を行っている。
	2	企業マネジメント	桂　卓成	2	企業において組織のマネジメントに従事していた経験に基づき、講義では、企業で培った様々な経験を学生に解説している。
	3	ネットワークセキュリティと管理	塩本　公平	2	通信事業者の研究所において、安全性の観点からの通信ネットワーク設計業務に従事していた経験に基づき、講義では、実務に直結する部分の詳細を解説している。
	4	ネットワークアルゴリズム	塩本　公平	2	通信事業者の研究所において、インターネットなどの情報ネットワークのアーキテクチャ、運用制御技術の基盤的研究開発に従事し、また、IETFなどの国際標準化活動を通じて、技術の世界的な普及を行ってきた経験に基づき、講義では、企業での研究開発で必要となるスキルや革新的技術を創造する上で必要となる考え方やグローバルで活躍するために必要なことを解説している。また、ネットワークアルゴリズムで学ぶシステムの設計・運用に必要な性能評価や最適化を行うための数学的道具（待ち行列理論、確率過程に基づくシミュレーション、数理計画法、各種アルゴリズム）が企業での研究開発にどのように用いられるかを解説している。
	5	経営情報システム	桂　卓成	2	企業においてビジネスインテリジェンスツールの利用を行っていた経験に基づき、講義では、企業で培った様々な経験を学生に解説している。
	6	グローバル企業マネジメント	芝　正孝	2	メーカーにおいて、国内外グループ会社に対するIT戦略の立案やその展開を行ってきた経験、また、ITや情報セキュリティに関するグローバル・ガバナンススキームの構築に従事したことを活かして、講義では、グローバル経営におけるこれまでの経験に基づく知識・ノウハウを解説している。また、外部講師の招聘を行っている。
	7	ビジネスモデル	桂　卓成	2	企業において特許創生業務に従事した経験に基づき、講義では、企業で培った様々な経験を学生に解説している。
	8	コンピュータネットワーク(情報科学科開講のコンピュータネットワークと同一シラバス)	塩本　公平	2	通信事業者の研究所において、インターネットなどの情報ネットワークのアーキテクチャ、運用制御技術の基盤的研究開発に従事し、また、IETFなどの国際標準化活動を通じて、技術の世界的な普及を行ってきた経験に基づき、講義では、企業での研究開発で必要となるスキルや革新的技術を創造する上で必要となる考え方やグローバルで活躍するために必要なことを解説している。
	9	クラウドコンピューティング	塩本　公平	2	通信事業者の研究所において、インターネットなどの情報ネットワークのアーキテクチャ、運用制御技術の基盤的研究開発に従事し、また、IETFなどの国際標準化活動を通じて、技術の世界的な普及を行ってきた経験に基づき、講義では、企業での研究開発で必要となるスキルや革新的技術を創造する上で必要となる考え方やグローバルで活躍するために必要なことを解説している。また、ネットワークアルゴリズムで学ぶシステムの設計・運用に必要な性能評価や最適化を行うための数学的道具（待ち行列理論、確率過程に基づくシミュレーション、数理計画法、各種アルゴリズム）が企業での研究開発にどのように用いられるかを解説している。
	10	ビジネスデータ分析演習	桂　卓成	1	企業においてデータ解析業務に従事した経験に基づき、講義では、企業で培った様々な経験を学生に解説している。
	11	デジタルが創る過去・現在・未来	芝　正孝	2	メーカーにおいて、国内外のグループ会社がデジタル社会に対応していくためのIT戦略の立案やその展開を行った経験に基づき、講義ではテーマの設定や学生に対して、真に役立つ情報を解説している。
				20	

学科名	№.	科目名	氏名	単位数	実務経験のある教員による実務経験の教育への活用
知能情報工学科 (2021年度入学以降)	1	企業マネジメント	桂　卓成	2	企業において組織のマネジメントに従事していた経験に基づき、講義では、企業で培った様々な経験を学生に解説している。
	2	専門キャリアデザイン	芝　正孝	1	メーカーにおいて、採用活動に関わった経験に基づき、実務のノウハウを解説するとともに、外部講師の招聘を行っている。
	3	ネットワークセキュリティと管理	塩本　公平	2	通信事業者の研究所において、安全性の観点からの通信ネットワーク設計業務に従事していた経験に基づき、講義では、実務に直結する部分の詳細を解説している。
	4	ネットワークアルゴリズム	塩本　公平	2	通信事業者の研究所において、インターネットなどの情報ネットワークのアーキテクチャ、運用制御技術の基盤的研究開発に従事し、また、IETFなどの国際標準化活動を通じて、技術の世界的な普及を行ってきた経験に基づき、講義では、企業での研究開発で必要となるスキルや革新的技術を創造する上で必要となる考え方やグローバルで活躍するために必要なことを解説している。また、ネットワークアルゴリズムで学ぶシステムの設計・運用に必要な性能評価や最適化を行うための数学的道具（待ち行列理論、確率過程に基づくシミュレーション、数理計画法、各種アルゴリズム）が企業での研究開発にどのように用いられるかを解説している。
	5	経営情報システム	桂　卓成	2	企業においてビジネスインテリジェンスツールの利用を行っていた経験に基づき、講義では、企業で培った様々な経験を学生に解説している。
	6	グローバル企業マネジメント	芝　正孝	2	メーカーにおいて、国内外グループ会社に対するIT戦略の立案やその展開を行ってきた経験、また、ITや情報セキュリティに関するグローバル・ガバナンススキームの構築に従事したことを活かして、講義では、グローバル経営におけるこれまでの経験に基づく知識・ノウハウを解説している。また、外部講師の招聘を行っている。
	7	ビジネスモデル	桂　卓成	2	企業において特許創生業務に従事した経験に基づき、講義では、企業で培った様々な経験を学生に解説している。
	8	コンピュータネットワーク(情報科学科開講のコンピュータネットワークと同一シラバス)	塩本　公平	2	通信事業者の研究所において、インターネットなどの情報ネットワークのアーキテクチャ、運用制御技術の基盤的研究開発に従事し、また、IETFなどの国際標準化活動を通じて、技術の世界的な普及を行ってきた経験に基づき、講義では、企業での研究開発で必要となるスキルや革新的技術を創造する上で必要となる考え方やグローバルで活躍するために必要なことを解説している。
	9	クラウドコンピューティング	塩本　公平	2	通信事業者の研究所において、インターネットなどの情報ネットワークのアーキテクチャ、運用制御技術の基盤的研究開発に従事し、また、IETFなどの国際標準化活動を通じて、技術の世界的な普及を行ってきた経験に基づき、講義では、企業での研究開発で必要となるスキルや革新的技術を創造する上で必要となる考え方やグローバルで活躍するために必要なことを解説している。また、ネットワークアルゴリズムで学ぶシステムの設計・運用に必要な性能評価や最適化を行うための数学的道具（待ち行列理論、確率過程に基づくシミュレーション、数理計画法、各種アルゴリズム）が企業での研究開発にどのように用いられるかを解説している。
	10	ビジネスデータ分析演習	桂　卓成	1	企業においてデータ解析業務に従事した経験に基づき、講義では、企業で培った様々な経験を学生に解説している。
	11	デジタルが創る過去・現在・未来	芝　正孝	2	メーカーにおいて、国内外のグループ会社がデジタル社会に対応していくためのIT戦略の立案やその展開を行った経験に基づき、講義ではテーマの設定や学生に対して、真に役立つ情報を解説している。
				20	

学科名	No.	科目名	氏名	単位数	実務経験のある教員による実務経験の教育への活用
自然科学科	1	物理学(1)(力学と同一シラバス)	飯島　正徳	2	民間企業の研究員としての実務経験に基づき、講義内容に関係する実体験の紹介を行っている。
	2	物理学(1)演習(力学演習と同一シラバス)	飯島　正徳	1	民間企業の研究員としての実務経験に基づき、講義内容に関係する実体験の紹介を行っている。
	3	地学(1)	萩谷　宏	2	放送事業者の学校放送番組部における科学教育番組制作の実務経験に基づき、制作した科学番組、書籍、教材を授業で活用している。
	4	電磁気学	飯島　正徳	2	民間企業の研究員としての実務経験に基づき、講義内容に関係する実体験の紹介を行っている。
	5	博物館学(1)	萩谷　宏	2	大学博物館において学芸員業務に従事した経験に基づき、講義では、学芸員の仕事の実際を紹介し、過去の展示作品などを教材として使用している。
	6	博物館学実習(1)	萩谷　宏	1	大学博物館において学芸員業務に従事した経験に基づき、講義では、実際の展示作成、過去の特別展の資料などを紹介している。
	7	物理学(2)(波動・熱力学と同一シラバス)	飯島　正徳	2	民間企業の研究員としての実務経験に基づき、講義内容に関係する実体験の紹介を行っている。
	8	地学(2)	萩谷　宏	2	放送事業者の学校放送番組部における科学教育番組制作の実務経験に基づき、制作した科学映像を授業で活用している。
	9	博物館学(2)	萩谷　宏	2	大学博物館において学芸員業務に従事した経験に基づき、講義では、博物館の経営や、維持するための努力について説明している。
	10	分子物性論	飯島　正徳	2	民間企業の研究員としての実務経験に基づき、講義内容に関係する実体験の紹介を行っている。
	11	映像表現論	萩谷　宏	2	放送事業者の学校放送番組部における科学教育番組制作の実務経験に基づき、制作した番組を教材として授業で活用している。
				20	

環境学部

学科名	No.	科目名	氏名	単位数	実務経験のある教員による実務経験の教育への活用
環境創生学科	1	生物分類学	北村　亘 内山　翼	2	（北村）環境アセスメントおよび生物調査業務に従事した経験を活かし、実務で得た野外での野生生物の調査手法を紹介し、実践的調査手法の技能指導につとめる。 ／（内山）公園緑地の計画および維持管理に従事した経験を活かし、植物の調査手法や形態的な特徴の指導に努める。
	2	生態学概論	北村　亘	2	環境アセスメントおよび生物調査業務に従事した経験を活かし、様々な実務から得た経験をもとにした生態学的現象を紹介し、生態学の理解を深める授業をおこなう。
	3	画像処理技法	史　中超	2	地図作成GIS、リモートセンシングなどに関わっている東京カートグラフィック(株)、(株)パスコ、国際航業(株)などの会社と長年にわたって共同研究、共同開発を行ってきており、アドバイザーとしての実務経験も有する。この経験を活かし、講義中、民間会社とのかかわりで得られた情報を基に、今どのような技術やスキールが求められているか、今後のトレンドはどうなっているかなどを学生にわかりやすく伝えることや、画像処理ソフトGIMPと空間情報ツールGoogle Earthを使って、画像の合成や分解の方法をはじめ、時系列衛星画像から森林伐採面積や北極氷の変化の抽出方法を指導する。
	4	図化表現技法	田中　章	2	生物多様性保全、ランドスケープ計画、環境影響評価を行うコンサルタントとして20年以上従事した経験を活かし、一般教養としての環境教育ではなく、実践的な環境分野人材育成教育を行い、受講生が実践力を身につけられるように努めている。
	5	都市環境学概論	丹羽　由佳理	2	課題やエリアマネジメントや都市開発などの実務で得た経験に基づき，演習や課題を提供する。
	6	マネジメント入門	岡田　公治	2	電機メーカーの研究所および戦略本部における経営分析・経営管理手法の研究及び事業部門への改善指導経験を活かし、知見を初学者向けにアレンジして講義の中で活用する。
	7	持続可能な消費	古川　柳蔵	2	シンクタンク業界において、情報収集やその分析に従事した実務経験を活かし、実践で必要とされる、収集した情報の分析方法等について指導する。
	8	情報社会入門	倉又　俊夫	2	日本放送協会で、30年以上の、テレビ番組制作、ウェブ制作実務等を実施してきた経験をもとに、これまでの知見を講義の内容に活かすことで、より実践的な講義とする。。
	9	環境化学	久米　一成	2	静岡県環境衛生科学研究所等で大気汚染・水質汚濁等の環境問題の調査・研究に従事するとともに、環境省の臭気指数規制ガイドライン策定検討委員やダイオキシン類受注資格審査分科会委員、国立環境研究所客員研究員、静岡県立大学客員教授等して、国の環境行政における施策作業や地球規模的環境問題研究等に参加した。またJICAの国際環境技術協力としてタイに2年間、エジプトに2か月などの専門家派遣や、中国の大気汚染による文化財影響調査、ヨーロッパにおける酸性雨調査に従事した。これらの実務経験は、講義において環境問題における貴重な体験としてP.P.資料の中で紹介し、環境問題の発生から解決への理解を深めるツールとして活用する。
	10	特別講義(環境計量士コース)	久米　一成 石田　康二	2	（久米）静岡県環境衛生科学研究所等で大気汚染防止法、水質汚濁防止法等の環境法令に基づき特定事業場への立ち入り調査や大気汚染・水質汚濁等の汚染物質の機器分析・大気自動測定等の業務に従事するとともに、JICAの環境技術専門家としてタイ、エジプトでのカウンターパートの分析技術指導や静岡県立大学客員教授として大学院生の分析技術指導に携わる。これらの実務経験を活用し、環境法規の成り立ちや分析機器の取り扱い等、現物写真や実際の分析風景等をP.P.資料の中で分かりやすく紹介し、環境計量士の国家試験問題における様々な用語の理解促進に役立てる。／（石田）東急建設技術研究所音響研究室にて17年間（内3年半は海外留学）建築音響、騒音振動関連の研究開発に従事、その後現在に至る20年間、小野測器にて、環境騒音振動を含めた騒音振動関連のコンサルティング業務を中心にした実務経験がある。また日本騒音制御工学会など学会活動を通じて騒音振動関連の規格策定にも携わる。建設会社と測定機器メーカでの研究開発、ｺﾝｻﾙﾃｨﾝｸﾞの実務経験を活かして、環境計量士試験の内容に沿って、図解を中心に解りやすい講義を目指す。
	11	情報通信入門	斉藤　茂樹	2	NTT研究所で初代デジタル携帯電話機を開発（2018年度電波技術協会賞受賞）。第1級無線従事技術士取得。回路設計から標準規格化まで担当。NTTエレクトロニクス株式会社（NEL）で各種通信機器を開発。特に、無線LAN（Wi-Fi）用IC、TV素材伝送無線装置、及びIoT用無線装置、並びにセキュリティ技術を開発。IoT用無線装置開発では、ガス／水道メータ遠隔検針（家庭、コンビニ）、バス追跡、太陽光発電監視、パレット追跡、ビニールハウス監視、災害対策（河川水位監視、避難者支援）等の無線機器やシステムを開発。その他、特許事務所及びNEL知財部門にて特許出願作業に従事。NELでは最新の光通信技術の特許化を担当中。また、他大学大学院にて、通信機器工学及び情報伝送工学をディスカッション形式で講義中。これらの実務経験を活かして、情報通信技術の様々な疑問について分かり易く解説する。特に、IoT用無線技術は、環境に関する様々なデータ収集方法を紹介するので環境学部学生の今後の研究活動の一助になると考える。また、TV素材伝送無線技術は、現場からの情報がTV放送で手元に届くしくみを知ることができ、情報メディア学部学生がメディアを考える上での一助になると考える。さらに、セキュリティ技術は各情報の正確性、知的財産権の知識はビジネス化を考える上で必須となる。
	12	環境マネジメントシステム	谷口　幸弘	2	企業でのISO14001に基づく、環境マネジメントシステムの構築及び運用の経験や、環境マネジメントシステム認証機関での審査員の経験を活かし、環境マネジメントシステムの実践例などの紹介に活かす。
				24	

学科名	No.	科目名	氏名	単位数	実務経験のある教員による実務経験の教育への活用
環境経営システム学科	1	生態学概論	北村　亘	2	環境アセスメントおよび生物調査業務に従事した経験を活かし、様々な実務から得た経験をもとにした生態学的現象を紹介し、生態学の理解を深める授業をおこなう。
	2	画像処理技法	史　中超	2	地図作成GIS、リモートセンシングなどに関わっている東京カートグラフィック(株)、(株)パスコ、国際航業(株)などの会社と長年にわたって共同研究、共同開発を行ってきており、アドバイザーとしての実務経験も有する。この経験を活かし、講義中、民間会社とのかかわりで得られた情報を基に、今どのような技術やスキールが求められているか、今後のトレンドはどうなっているかなどを学生にわかりやすく伝えることや、画像処理ソフトGIMPと空間情報ツールGoogle Earthを使って、画像の合成や分解の方法をはじめ、時系列衛星画像から森林伐採面積や北極氷の変化の抽出方法を指導する。
	3	都市環境学概論	丹羽　由佳理	2	課題やエリアマネジメントや都市開発などの実務で得た経験に基づき，演習や課題を提供する。
	4	エコマテリアル	一杉　佑貴	2	LCA手法を用いた環境評価とデータベースの開発の経験を活かし、材料の環境特性やその利用法の解説、環境負荷の定量化、見学を通じた実践的教育をする。
	5	マネジメント入門	岡田　公治	2	電機メーカーの研究所および戦略本部における経営分析・経営管理手法の研究及び事業部門への改善指導経験を活かし、知見を初学者向けにアレンジして講義の中で活用する。
	6	環境経営システム学入門	古川　柳蔵 岡田　公治 馬場　健司	2	古川柳蔵は民間シンクタンクでのコンサルティングや政策提案、岡田公治は電機メーカーの研究所等における経営分析・経営管理手法の研究等、馬場健司は公益財団法人の研究所において地方自治体の環境政策やエネルギー政策調査、分析をそれぞれ担当した。
	7	持続可能な消費	古川　柳蔵	2	シンクタンク業界において、情報収集やその分析に従事した実務経験を活かし、実践で必要とされる、収集した情報の分析方法等について指導する。
	8	情報社会入門	倉又　俊夫	2	日本放送協会で、30年以上の、テレビ番組制作、ウェブ制作実務等を実施してきた経験をもとに、これまでの知見を講義の内容に活かすことで、より実践的な講義とする。。
	9	環境化学	久米　一成	2	静岡県環境衛生科学研究所等で大気汚染・水質汚濁等の環境問題の調査・研究に従事するとともに、環境省の臭気指数規制ガイドライン策定検討委員やダイオキシン類受注資格審査分科会委員、国立環境研究所客員研究員、静岡県立大学客員教授等して、国の環境行政における施策作業や地球規模の環境問題研究等に参加した。またJICAの国際環境技術協力としてタイに2年間、エジプトに2か月などの専門家派遣や、中国の大気汚染による文化財影響調査、ヨーロッパにおける酸性雨調査に従事した。これらの実務経験は、講義において環境問題における貴重な体験としてP.P.資料の中で紹介し、環境問題の発生から解決への理解を深めるツールとして活用する。
	10	特別講義(環境計量士コース)	久米　一成 石田　康二	2	（久米）静岡県環境衛生科学研究所等で大気汚染防止法、水質汚濁防止法等の環境法令に基づき特定事業場への立ち入り調査や大気汚染・水質汚濁等の汚染物質の機器分析・大気自動測定等の業務に従事するとともに、JICAの環境技術専門家としてタイ、エジプトでのカウンターパートの分析技術指導や静岡県立大学客員教授として大学院生の分析技術指導に携わる。これらの実務経験を活用し、環境法規の成り立ちや分析機器の取り扱い等、現物写真や実際の分析風景等をP.P.資料の中で分かりやすく紹介し、環境計量士の国家試験問題における様々な用語の理解促進に役立てる。／（石田）東急建設技術研究所音響研究室にて17年間（内3年半は海外留学）建築音響、騒音振動関連の研究開発に従事、その後現在に至る20年間、小野測器にて、環境騒音振動を含めた騒音振動関連のコンサルティング業務を中心にした実務経験がある。また日本騒音制御工学会など学会活動を通じて騒音振動関連の規格策定にも携わる。建設会社と測定機器メーカでの研究開発、ｺﾝｻﾙﾃｨﾝｸﾞの実務経験を活かして、環境計量士試験の内容に沿って、図解を中心に解りやすい講義を目指す。
	11	マクロ経済学	鍛治　篤	2	信託銀行にて、運用関連業務（調査研究・事務管理・ファンドマネージャー等）に27年間従事した経験を活かし、経済事象をどのよう理解し、仕事に生かしてきたかを常に意識した説明を行う。
	12	情報通信入門	斉藤　茂樹	2	NTT研究所で初代デジタル携帯電話機を開発（2018年度電波技術協会賞受賞）。第1級無線従事技術士取得。回路設計から標準規格化まで担当。NTTエレクトロニクス株式会社（NEL）で各種通信機器を開発。特に、無線LAN（Wi-Fi）用IC、TV素材伝送無線装置、及びIoT用無線装置、並びにセキュリティ技術を開発。IoT用無線装置開発では、ガス／水道メータ遠隔検針（家庭、コンビニ）、バス追跡、太陽光発電監視、パレット追跡、ビニールハウス監視、災害対策（河川水位監視、避難者支援）等の無線機器やシステムを開発。その他、特許事務所及びNEL知財部門にて特許出願作業に従事。NELでは最新の光通信技術の特許化を担当中。また、他大学大学院にて、通信機器工学及び情報伝送工学をディスカッション形式で講義中。これらの実務経験を活かして、情報通信技術の様々な疑問について分かり易く解説する。特に、IoT用無線技術は、環境に関する様々なデータ収集方法を紹介するので環境学部学生の今後の研究活動の一助になると考える。また、TV素材伝送無線技術は、現場からの情報がTV放送で手元に届くしくみを知ることができ、情報メディア学部学生がメディアを考える上での一助になると考える。さらに、セキュリティ技術は各情報の正確性、知的財産権の知識はビジネス化を考える上で必須となる。
	13	環境マネジメントシステム	谷口　幸弘	2	企業でのISO14001に基づく、環境マネジメントシステムの構築及び運用の経験や、環境マネジメントシステム認証機関での審査員の経験を活かし、環境マネジメントシステムの実践例などの紹介に活かす。
				26	

メディア情報学部

学科名	No.	科目名	氏名	単位数	実務経験のある教員による実務経験の教育への活用
社会メディア学科	1	現代国内情勢	高田　昌幸	2	担当教員は新聞社において取材・編集デスクを30年以上経験。「調査報道」を軸に金融・財政、司法・警察、中央政治、国際（ロンドン特派員）の各分野で活動してきた。その実務や人的ネットワークに長けている。また社団法人日本記者クラブ、および日本ジャーナリスト会議（JCJ）等の公的団体において後進育成事業にも長く携わっており、それらの経験を授業に活用し、国内外での豊富な取材経験に基づく、理論だけにとどまらない知見を教授する。
	2	情報と社会	奥村　倫弘	2	（奥村）新聞記者、ネットメディア編集長、メディア企業経営の経験がある。ビジネスとジャーナリズムにおける約30年の実務経験を通じて得られた考え方と人脈を授業に役立てる。
	3	情報編集入門	永盛　祐介	2	グラフィックデザイン、インタフェースデザイン、WEBデザイン、映像制作の実務経験を有しており、その実務経験により得られた技術に基づき講義を行う。
	4	統計学基礎	山崎　瑞紀	2	研究所での量的・質的調査の立案及び実施に従事した経験を活かし、社会調査に関する知識・技術を伝える。
	5	現代社会とメディア	奥村　倫弘	2	（奥村）新聞記者、ネットメディア編集長、メディア企業経営の経験がある。ビジネスとジャーナリズムにおける約30年の実務経験を通じて得られた考え方とモノの見方を共有する。
	6	ヒューマンコンピュータインタラクション	市野　順子	2	企業3社での情報システム開発（プロジェクト管理、要件定義、設計、実装、保守・運用）の経験を活かし、学習内容の必要性が理解できるように，実社会におけるヒューマンコンピュータインタラクションの適用例について随時説明する.
	7	コンピュータグラフィックス	宮地　英生	2	コンピュータグラフィックスを用いたソフトウエアの開発、販売に25年以上従事した経験を活かし、コンピュータグラフィックスの産業界の利用について、実践的な事例などを用いて講義を実施する。
	8	特別講義(環境計量士コース)	久米　一成 石田　康二	2	（久米）静岡県環境衛生科学研究所等で大気汚染防止法、水質汚濁防止法等の環境法令に基づき特定事業場への立ち入り調査や大気汚染・水質汚濁等の汚染物質の機器分析・大気自動測定等の業務に従事するとともに、JICAの環境技術専門家としてタイ、エジプトでのカウンターパートの分析技術指導や静岡県立大学客員教授として大学院生の分析技術指導に携わる。これらの実務経験を活用し、環境法規の成り立ちや分析機器の取り扱い等、現物写真や実際の分析風景等をP.P.資料の中で分かりやすく紹介し、環境計量士の国家試験問題における様々な用語の理解促進に役立てる。／（石田）東急建設技術研究所音響研究室にて17年間（内3年半は海外留学）建築音響、騒音振動関連の研究開発に従事、その後現在に至る20年間、小野測器にて、環境騒音振動を含めた騒音振動関連のコンサルティング業務を中心にした実務経験がある。また日本騒音制御工学会など学会活動を通じて騒音振動関連の規格策定にも携わる。建設会社と測定機器メーカでの研究開発、ｺﾝｻﾙﾃｨﾝｸﾞの実務経験を活かして、環境計量士試験の内容に沿って、図解を中心に解りやすい講義を目指す。
	9	情報通信技術入門	斉藤　茂樹	2	NTT研究所で初代デジタル携帯電話機を開発（2018年度電波技術協会賞受賞）。第1級無線従事技術士取得。回路設計から標準規格化まで担当。NTTエレクトロニクス株式会社（NEL）で各種通信機器を開発。特に、無線LAN（Wi-Fi）用IC、TV素材伝送無線装置、及びIoT用無線装置、並びにセキュリティ技術を開発。IoT用無線装置開発では、ガス／水道メータ遠隔検針（家庭、コンビニ）、バス追跡、太陽光発電監視、パレット追跡、ビニールハウス監視、災害対策（河川水位監視、避難者支援）等の無線機器やシステムを開発。その他、特許事務所及びNEL知財部門にて特許出願作業に従事。NELでは最新の光通信技術の特許化を担当中。また、他大学大学院にて、通信機器工学及び情報伝送工学をディスカッション形式で講義中。これらの実務経験を活かして、情報通信技術の様々な疑問について分かり易く解説する。特に、IoT用無線技術は、環境に関する様々なデータ収集方法を紹介するので環境学部学生の今後の研究活動の一助になると考える。また、TV素材伝送無線技術は、現場からの情報がTV放送で手元に届くしくみを知ることができ、情報メディア学部学生がメディアを考える上での一助になると考える。さらに、セキュリティ技術は各情報の正確性、知的財産権の知識はビジネス化を考える上で必須となる。
	10	環境問題と社会	谷口　幸弘	2	企業でのISO14001に基づく、環境マネジメントシステムの構築及び運用の経験や、環境マネジメントシステム認証機関での審査員の経験を活かし、環境マネジメントシステムの実践例などの紹介に活かす。
				20	

学科名	№.	科目名	氏名	単位数	実務経験のある教員による実務経験の教育への活用
情報システム学科	1	情報と社会	奥村　倫弘	2	（奥村）新聞記者、ネットメディア編集長、メディア企業経営の経験がある。ビジネスとジャーナリズムにおける約30年の実務経験を通じて得られた考え方と人脈を授業に役立てる。
	2	統計学基礎	山崎　瑞紀	2	研究所での量的・質的調査の立案及び実施に従事した経験を活かし、社会調査に関する知識・技術を伝える。
	3	情報数学	大谷　紀子	2	電機メーカーの情報系の研究所における基礎研究及び開発に従事した経験を活かし、学習内容の必要性が理解できるように、具体的な製品やサービスへの適用事例を随時紹介する。
	4	アルゴリズムとプログラミング	大谷　紀子	2	電機メーカーの情報系の研究所における基礎研究及び開発に従事した経験を活かし、学習内容の必要性が理解できるように、具体的な製品やサービスへの適用事例を随時紹介する。
	5	ヒューマンコンピュータインタラクション	市野　順子	2	企業3社での情報システム開発（プロジェクト管理、要件定義、設計、実装、保守・運用）の経験を活かし、学習内容の必要性が理解できるように，実社会におけるヒューマンコンピュータインタラクションの適用例について随時説明する.
	6	コンピュータグラフィックス	宮地　英生	2	コンピュータグラフィックスを用いたソフトウエアの開発、販売に25年以上従事した経験を活かし、コンピュータグラフィックスの産業界の利用について、実践的な事例などを用いて講義を実施する。
	7	特別講義(環境計量士コース)	久米　一成 石田　康二	2	（久米）静岡県環境衛生科学研究所等で大気汚染防止法、水質汚濁防止法等の環境法令に基づき特定事業場への立ち入り調査や大気汚染・水質汚濁等の汚染物質の機器分析・大気自動測定等の業務に従事するとともに、JICAの環境技術専門家としてタイ、エジプトでのカウンターパートの分析技術指導や静岡県立大学客員教授として大学院生の分析技術指導に携わる。これらの実務経験を活用し、環境法規の成り立ちや分析機器の取り扱い等、現物写真や実際の分析風景等をP.P.資料の中で分かりやすく紹介し、環境計量士の国家試験問題における様々な用語の理解促進に役立てる。／（石田）東急建設技術研究所音響研究室にて17年間（内3年半は海外留学）建築音響、騒音振動関連の研究開発に従事、その後現在に至る20年間、小野測器にて、環境騒音振動を含めた騒音振動関連のコンサルティング業務を中心にした実務経験がある。また日本騒音制御工学会など学会活動を通じて騒音振動関連の規格策定にも携わる。建設会社と測定機器メーカでの研究開発、ｺﾝｻﾙﾃｨﾝｸﾞの実務経験を活かして、環境計量士試験の内容に沿って、図解を中心に解りやすい講義を目指す。
	8	環境問題と社会	谷口　幸弘	2	企業でのISO14001に基づく、環境マネジメントシステムの構築及び運用の経験や、環境マネジメントシステム認証機関での審査員の経験を活かし、環境マネジメントシステムの実践例などの紹介に活かす。
				16	

デザイン・データ科学部

学科名	No.	科目名	氏名	単位数	実務経験のある教員による実務経験の教育への活用
デザイン・データ科学科	1	データサイエンス概論	河合　孝純	2	データ分析による課題解決の実務経験に基づき、実際のデータ分析による課題解決で陥りやすい失敗や分析ノウハウの伝授する。
	2	ユーザーエクスペリエンスデザイン入門	市野　順子 蓮池　公威	2	（蓮池）精密機器会社のデザイン部門、フリーランスでのデザイン業務(UIデザイン、インタラクションデザイン、サービスデザイン、ユーザビリティ、将来ビジョニング、ワークプレイスデザイン、ユーザーリサーチ)の経験を学習内容の必要性が理解できるように、具体的なシステムやサービスへの適用事例を随時紹介する。（市野）システムインテグレーター2社・総合印刷会社1社での情報システム開発（プロジェクト管理、要件定義、設計、実装、テスト、保守・運用）の経験を学習内容の必要性が理解できるように、具体的なシステムやサービスへの適用事例を随時紹介する
	3	ソーシャルシステムデザイン入門	関　良明	2	企業経営やシステム開発の実務における事例を紹介し、講義内容と実務との関連性を説明する
	4	データ社会論	斎藤　文	2	企業経営コンサルタントとしての経験25年、地域リーダー育成・地域産業形成を含む地域のソーシャルデザイン経験10年の実務経験を企業、地域における経験を各々のデータとの関係において整理し事例を交えて提供する
	5	量的ユーザー調査	市野　順子	2	システムインテグレーター2社・総合印刷会社1社での情報システム開発（プロジェクト管理、要件定義、設計、実装、テスト、保守・運用）の実務経験を学習内容の必要性が理解できるように、具体的なシステムやサービスへの適用事例を随時紹介する
	6	質的ユーザー調査	蓮池　公威	2	精密機器会社のデザイン部門、フリーランスでのデザイン業務(UIデザイン、インタラクションデザイン、サービスデザイン、ユーザビリティ、将来ビジョニング、ワークプレイスデザイン、ユーザーリサーチ)の実務を学習内容の必要性が理解できるように、具体的なデザインやプロジェクトへの適用事例を随時紹介する
	7	環境問題と社会	谷口　幸弘	2	企業でのISO14001に基づく、環境マネジメントシステムの構築及び運用の経験や、環境マネジメントシステム認証機関での審査員の経験を活かし、環境マネジメントシステムの実践例などの紹介に活かす。
				14	

都市生活学部

学科名	No.	科目名	氏名	単位数	実務経験のある教員による実務経験の教育への活用
都市生活学科	1	集客学	川口　和英	2	民間シンクタンクで地域開発や都市計画のコンサルティングに関わり、多くのプロジェクトや調査・研究を実施した経験に基づき、実践的な「集客学」をとりまく考え方、企画、戦略、デザイン、応用などについて講義する。
	2	都市政策	明石　達生	2	中央省庁と都市自治体の行政官の実務経験に基づき、都市の社会問題を多様な立場から多角的に考える力を育成し行政・政策について教授。
	3	都市ビジネス	宇都　正哲	2	企業にて、都市・地域関連の受託研究、都市インフラビジネスの事業戦略、海外展開におけるパートナリング、都市ビジネスの事業戦略などを専門にコンサルティングを実施。 その実務経験に基づき、講義では、実際の実例を紹介する。
	4	Urban Development & Management	沖浦　文彦	2	国際ビジネス経験、ODA実施実務経験に基づき実践的な講義、演習の実施。事例紹介とその解説、体験談等を加え、国内、海外で事業を遂行するための素養を考える機会を提供。
	5	都市デザイン	川口　英俊	2	国内と国外の建築士事務所勤務において建築デザイン、都市デザイン等の実務業務を30年、1級建築士として26年の業務経験及び自ら1級建築士事務所を主宰し、土木業界との連携で国土未来プロジェクトに参加して、インフラストラクチャーと都市デザインの研究とを行っている実務経験に基づき、設計やデザインを行うときの社会と都市デザインの在り方の実践知を教授。
	6	インテリアデザインと実務	髙栁　英明	2	設計事務所代表として、独立住宅・集合住宅等の意匠設計・インテリアデザイン・設計監理業務の他、建築企画・不動産プロデュース業務を行っており、インテリアデザインにかかる現業知識を活かし、都市生活者に必要なコマーシャル店舗・集客空間のインテリアについて講義する。
	7	会計学概論	永江　総宜	2	税理士としての経験に基づく会計実務の実例を交え、課題、事例検討等を実施する。
	8	プロジェクトマネジメント	太田　明	2	デベロッパーの不動産企業における都市開発・投資・運用、資金調達およびそのためのプロジェクトマネジメント等の実務経験（4年間のシンガポール駐在による海外事業経験を含む）から得た知見を活かすとともに、実例を紹介。 プロジェクトマネジメントの基礎に加え、具体的な都市開発プロジェクトの企画や実際のプロジェクト運営を教授する。
	9	ブランド戦略	北見　幸一	2	広告会社、PR会社、FIFA2002サッカーワールドカップ日本組織委員会での実務経験に基づた授業解説を実施、複眼的な方法論の獲得により、企画・業務の実践に活かす能力の習得を教授する。
	10	住まいの構法・生産・流通	信太　洋行	2	外壁の実施設計の実務経験に基づき詳細図面の読み方を実例を交えて解説する。具体的一例として、施工工程を配慮した作図法を指すということがあげられる。
				20	

人間科学部

学科名	No.	科目名	氏名	単位数	実務経験のある教員による実務経験の教育への活用
児童学科 (2022年度入学以前)	1	子ども家庭支援の心理学	井戸　ゆかり	2	相談機関、保育所などで心理職としての経験を有し、授業内において具体的な事例を紹介することで授業理解を深める。
	2	子ども理解の理論と方法	井戸　ゆかり	2	相談機関、保育所などで心理職としての経験を有し、授業内においては事例紹介や心理学的な質的研究の見地から子ども理解を深める。
	3	社会福祉	宮川　哲弥	2	中学校・高等学校社会教諭、児童福祉司、児童自立支援専門員としての経験を有し、授業内においてその実務内容に触れることで、社会福祉の制度及び実施体系、相談援助の在り方や利用者保護制度など、現代の社会福祉の動向や課題について理解を深める。
	4	公衆衛生学	早坂　信哉	2	臨床医学経験、公衆衛生行政経験による実例を活かし、自ら自発的に公衆衛生活動ができるように教育。
	5	子どもの保健と健康	早坂　信哉	2	臨床医療経験、保育所園医経験による実際に即した事例の提示などを通して、乳幼児期の基本的な生活習慣の形成とその意義や安全教育・安全管理について教育。
	6	教育心理学	紺野道子	2	病院や相談機関での心理職としての実務経験を有し、その経験に基づき発達臨床の経験から得た知見を紹介する。
	7	特別な配慮を必要とする子どもの理解と支援	園田　巌	2	重症心身障害児施設、保育所、放課後児童クラブ、子育て支援施設等の実務経験に基づき実践場面を想定しながら授業を行う。
	8	幼児教育方法論	室井　眞紀子	2	幼稚園教諭として保育（教育）、クラス運営、カリキュラム作成等を行った経験に基づき教育現場で実際に経験した事例やエピソードを講義の中に取り込む。
	9	子どもと環境	松橋　圭子	2	保育施設の設立・改修アドバイザーとしての実務経験を有し、その経験に基づき環境づくりに携わる経験から得た知見を取り入れる。
	10	教育学概論	横山　草介	2	小学校教諭の実務経験に基づき実践的な内容に触れる。
				20	

学科名	No.	科目名	氏名	単位数	実務経験のある教員による実務経験の教育への活用
人間科学科 (2023年度入学以降)	1	子どもと環境	松橋　圭子	2	保育施設の設立・改修アドバイザーとしての実務経験を有し、その経験に基づき環境づくりに携わる経験から得た知見を取り入れる。
	2	教育学概論	横山　草介	2	小学校教諭の実務経験に基づき実践的な内容に触れる。
	3	子ども家庭支援の心理学	井戸　ゆかり	2	
	4	子ども理解の理論と方法	井戸　ゆかり	2	
	5	社会福祉	宮川　哲弥	2	
	6	公衆衛生学	早坂　信哉	2	
	7	子どもの保健と健康	早坂　信哉	2	
	8	教育心理学	紺野　道子	2	
	9	特別な配慮を必要とする子どもの理解と支援	園田　巌	2	
	10	幼児教育方法論	室井　眞紀子	2	
				20	